

オペレッタに力を入れる チューリヒ歌劇場

「娯楽だけでなくオペレッタをのこそう」というコンセプトでレパートリーを増やしているチューリヒ歌劇場は、2月11日、バリー・コスキーの新演出でレハール《メリー・ウィドウ》を披露した。カーテンコールでは、ブライニングの数は少なかつたものの、後列のジャーナリストまで罵言を吐いていたり、「お金の無駄遣い」と憤慨したりする観客も少なからずいた。しかし、柔軟な目で見れば、メルヘンティックなオペレッタの登場人物に、誰もが共感できる人



完璧なハンナを演じたペーターゼン。チューリヒ歌劇場《メリー・ウィドウ》から
© Monika Rittershaus

格を与え、人生のはかなさを織り込み、長く続く余韻をもたらしただけで済んだ。

音楽的には、28歳の指揮者パトリック・ハーンがしっかり掌握していたのはオーストリア人の血か。その棒に安心した様子で、歌手たちは持てるすべての力を出しきっていた。そのなかでマルリス・ペーターゼンは完璧なハンナだった。黒と白と銀の上品な舞台に美しいダンス・シーンが始まり、そこに先ほどまで座っていた彼女が溶け込んでいくさまはマリリン・モンローのよう。これだけのルックスと軽やかな動き、そして貴婦人となった気品を持ち、かつ安定した歌唱でオペレッタに高い芸術性を与え、ド

イツ語のセリフ回しも演技も自然な歌手はほかに思いつかない。この演出の成功は彼女あつてのものだろう。続いてダニロ役のミヒャエル・フォツレも心地よい声で、登場してすぐに観客の注意を引き寄せる。高音など辛そうな部分もあったが、上手く演技でカヴァーし、セリフのタイミングがズレても気にならないほど自然に演じていた。期待のカタリーナ・コンラーディも、いつものように体当たりで、バイエルン州立歌劇場のJ・シュトラウス2世《こうもり》のアデーレ同様、ヴァランシエンヌもハマリ役にしていた。カスカードのオメル・コビリヤック、カミーユのアンドリュウ・フォン・オーウェンの美声も光った。

そして弦楽アンサンブルの美しさは特筆に値し、チェロ、そしてコンサートマスターのバルトウオミ・ニジヨウは音だけで泣かせる。最後のほうにはほとんどアンダーグラウンドなコスキー独特の趣味が主張してきたが、幕切れの演出はすばらしい演劇人だということを証明した。

藤田真央のリサイタル

ビール・フィルハーモニー協会は手頃な値段で一流のアーティストが聴ける音楽会を提供する団体だが、2月18日の今季第4回目演奏会にはヴィオラのアントワン・タメステイが藤田真央のピアノで出演することになった。スペイン、イタリア、ウィーンと回り、3月には来日ツアーも行う二人だが、3週間前にこのビールの公演のみ、タメステイが家族の問題でキャンセルしたため、藤田真央のリサイタルとなった。

小さめでアットホームなホールで、ピアノの状態も最適とはいえない状況を気にかける様子もなく、藤田は音を紡ぐ。グリーグ《抒情小曲集》第3集は、ゆったり藤田の世界に入っていくには最適なプログラムだ。《孤独なさすらい人》ではピアノに話しかけるように、そして物語を朗読するように。《ふるさと》では音が小さな光を発していた。《春に寄す》では雪解け水が流れているのが見えるよう。やはり藤田のピアノは情景を見せるのだ。

デオダ・ド・セヴラック「組曲《セルダーニャ》」の「第2曲《祭り》」でもそれは続き、街の喧騒、ファンファーレ、踊る人たちが見え、映画音楽のような一面も魅せてくれた。ショパン《舟歌》嬰へ長調を経て、プロコフィエフ《ピアノ・ソナタ第1番》は今のクライマックス。激しさと呼

吸がすべて合っているので、よい意味でほとんどエスカレートし、藤田はなにかに憑かれていくように、聴衆は雷に打たれたように、休憩中もしばらく立てなかった。

後半はシューマン。《アラベスク》は美しく《クライスレリアーナ》は激しく人生を描く。アンコールはブラームス「8つの小品」から「第8番」でロマンティックに締めた。すばらしいプログラミングに唸らされたが、今夏のルツェルン音楽祭でのリサイタルも同じ選曲だという。いまから夏が楽しみだ。

小澤征爾逝去

2月9日、小澤征爾の訃報が報道された。小澤征爾スイス国際アカデミーは「『伝えたい』という情熱に突き動かされ、2004年ヨーロッパの中心地点に弦楽四重奏アカデミーを創設、国際的名声のあるアーティストを招きました。他を聴き、一体となって呼吸し、音楽の魂を表現するために共通の音を放つという、すぐれた音楽家に不可欠な事は弦楽四重奏から学べると考えた小澤は各クラスを見学し、スコア片手に床に座って、ときどき助言を与えます。演奏会では、ただ手を挙げるだけでなく、奇跡のような音を紡ぎ出すのです。これらの瞬間は生徒たちの記憶に刻まれ、新たな方向性を切り開き、想像力を育むことでしよう。小澤征爾のなみ外れた音楽的エネルギーは、音楽家たちにインスピレーションを与え続け、彼がこよなく愛したこのアカデミーに特別な息吹を残しています」とコメントした。

第20回となる今年は7月1〜12日まで開催され、9日には小澤追悼コンサートがジュネーヴで行われる。